



2



1

開かれた大学。

6

ワイマール・パウハウス大学との交流展

モダニズムの伝統に新たな挑戦をはかる芸術総合大学

ワイマール・パウハウス大学との間で作品を媒介としておこなわれた充実した国際交流

「グリーン・スペース」をテーマに学生が中心となって意味深いコミュニケーションがはかられた。

「グリーン・スペース」を移植する

井村 彰

本学美術学部とワイマール・パウハウス大学造形学部の現代美術交流展「グリーン・スペース」が二一年（平成十四）九月二十日から十月六日まで取手校地で催された。両学それぞれ一人（ユニット）の学生が参加し、作品は大学美術館取手館とメディア教育棟およびその周辺の屋外で展示された。この交流展は、パウハウス大学のバーバラ・ネーミッツ教授から本学美術学部先端芸術表現科の渡辺好明助教授に学生交流の提案が打診されたことから始まって、多くの方々のご協力を得て実現に至ったものである。

芸大側の出展者の選考には、美術学部の各科の教官があたり、油画、彫刻、建築、先端の学生が選ばれ、加えて数名の教官と助手も展示に参加することとなった。パウハウス側の参加者はネーミッツ教授のゼミ生たちが中心だったが、ドイツの美大生といっても国籍はさまざまで、まだ授業の始まっていなかった取手のキャンパスにインターナショナルな空気が広がった。展覧会に先だつては、九月十六日から三日間両学の学生たちによるワー

クシヨップ・インスタント・ガーデン」も開催され、芸術学科の学生も加わって日独混成グループによるそれぞれの「庭作り」「庭さがい」が行われた。言葉の問題があつたとはいえ、町の散策や制作を介したもどかしくも楽しいコミュニケーションは、学生たちにとっては展覧会に向けてのよき助走となつたようだ。

十七日には上野校地で「トランス・プラント 現代美術のなかの植物」と題するネーミッツ教授の特別講演会が行われ、今回の「グリーン・スペース」というテーマの下敷きになっている彼女のコンセプトを理解する絶好の機会となつた。ネーミッツ教授は、「自身の作品制作だけでなく、植物を表現媒体として制作をしている世界中のアーティストを招く「アーティスト・ガーデン・ワイマール」というプロジェクトを続けている作家でもある。芸大でのこの交流展は、ワイマールの緑の空間を取手にも移植する（transplant）試みたといえるだろう。

参加者たちはそれぞれの仕方です「グリー



「グリーン・スペース」参加作品

1. ワイマール・パウハウス大学
中央棟
2. グロピウスの部屋
3. ワークショップ
4. ワークショップ
5. 作品プラン審査風景
6. アーティストトーク



4



3

ン・スペース」というテーマを独自に解釈し、それぞれの展示へとつなげていった。竣工してまもないメディア教育棟をつまく活用したものや、取手の縁と連携した屋外のインスタレーションなど、上野校地では得られないような展示も少なくなかった。展覧会のオープニングには予想以上の来客があり、それぞれの作品をみんなでアチストトークというかたちで見て回った後、美術館の前で催された祝宴では夜遅くまで交流の乾杯と歌声が続いていた。

両大学の交流は、このように学生を中心に作品を媒介として行われた充実したものであり、形式よりも内容が先行した意味のある国際交流だったといえるだろう。今後はより円滑な交流事業が可能となるよう、正式な交流協定の締結に向けて準備中である。また、この「芸大通信」六号が発行されるころには、今度は私たち芸大のメンバーがワイマールに赴いて、交流展第二弾の「グリーン・スペース2 光と影」に参加しているはずである。「グリーン・スペース」および「グリーン・スペース2」については左記のホームページをご覧ください。
http://www.lma-fa.geldai.ac.jp/green_space/index.html

ワイマール・パウハウス大学の起源は、一



「グリーン・スペース」参加作品

八六〇年に設立されたワイマール美術学校に遡る。その後、ヴァン・デ・ヴェルデが校長だったこともある工芸学校の時代を経て、一九一九年にヴァルター・グロピウスが設立したあの「パウハウス」として歴史にその名を刻んでいる。一九二五年のデッサウへのパウハウス移転後は、ナチスの時代から東ドイツの時代へと美術と建築の大学として何度かの改組を重ねていたが、一九九〇年の東西ドイツ統一後、新しい大学として再生することになった。一九九五年に「パウハウス」の名前を継承して現在の名称(Bauhaus Universität Weimar)となり、現在は建築、都市工学、造形、メディアの四学部を抱える芸術総合大学となっている。大学はワイマール旧市街各所に位置して、今もパウハウス時代の建築が校舎として使われている。

ワイマールは人口一 万に満たない小さな町だが、国民劇場の前の有名なゲーテとシラーの像が示すように、ヨーロッパ近代市民社会において優れた芸術文化を時代の節目ごとに発信してきた屈指の文化都市であり、一九九九年にはEUが毎年選定する欧州文化首都に指定されている。

(いむら・あきら/美術学部芸術学科助教授)



6



5